大分県における新型コロナウイルス感染症患者の罹患後症状（後遺症）研究　結果の概要

背景と目的

新型コロナウイルス感染症の罹患後に様々な後遺症が続くことが世界的に報告されているが、大分県内での調査は行われていなかった。
そこで、従来知られている症状の実態と、生活影響（日常生活の回復度）および精神的影響（感染という経験によるトラウマ的症状）の実態について調査した。

対象者

2021年7月～2022年3月に感染した重症患者、2022年1月～3月に感染した中等症患者
2022年1月に感染した軽症患者（入院した人と自宅療養・宿泊療養者に区分）
（20歳未満、80歳以上除く）　　計2,108人

方法

感染後6～14ヶ月にあたる2022年9～10月に質問紙を郵送し、752人（35.7%）から有効回答を得た。
重症である程回答率は高く、回答者が“後遺症が重い人”等に偏っている可能性は否定できないが、これら752人を分析した。

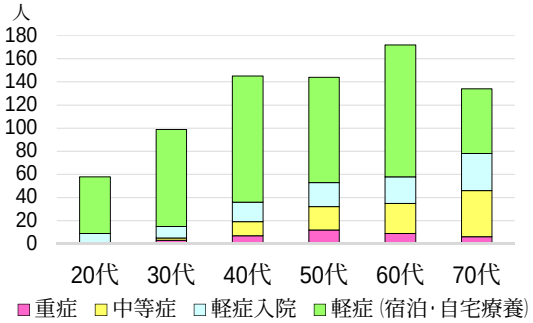

図1　年齢・重症度別人数

表1　有効回答者数と重症度

重症度	対象数	有効回答(率)	有効回答者中の割合
重症（入院）	90	38 (42.2%)	5.1%
中等症（入院）	228	100 (43.9%)	13.3%
軽症（入院）	300	111 (37.0%)	14.8%
軽症（自宅・宿泊療養）	1,490	503 (33.8%)	66.9%
総計	2,108	752 (35.7%)	100%

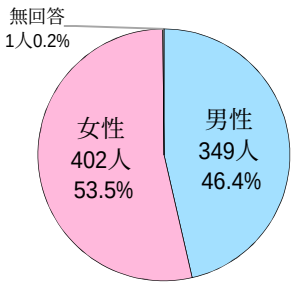

図2　性別

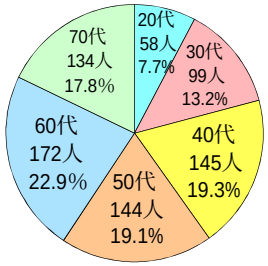

図3　年齢構成

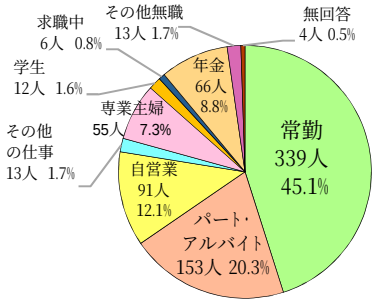

図4　罹患前の職業

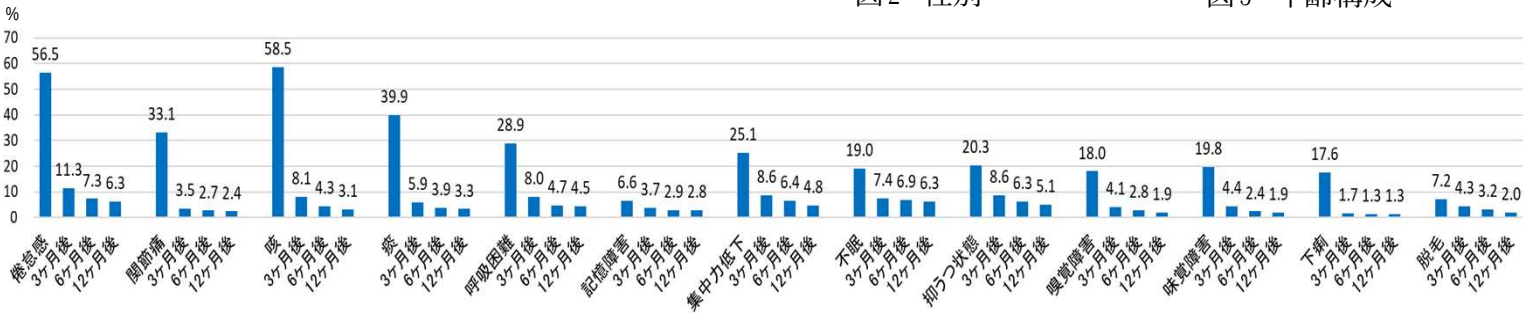

図5　回答者全体における後遺症の割合

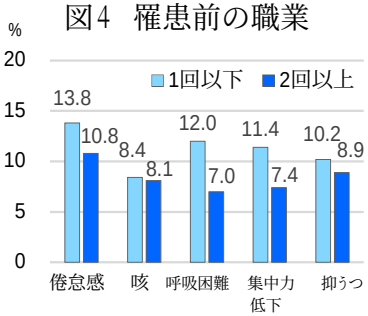

図6　ワクチン接種回数による3ヶ月後の後遺症の割合

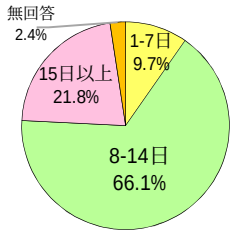

図7　活動休止日数

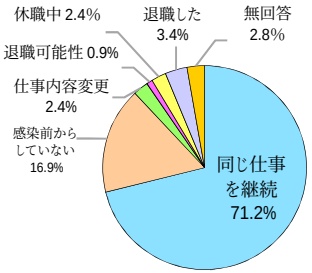

図8　仕事の変化

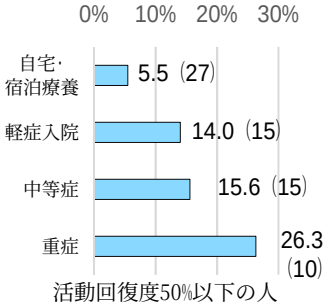

図9　重症度と活動回復度

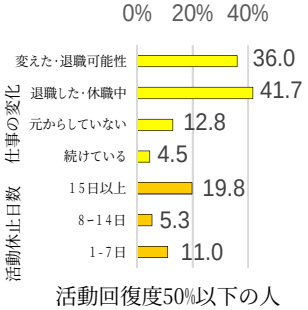

図10　活動休止日数・仕事の変化と活動回復度

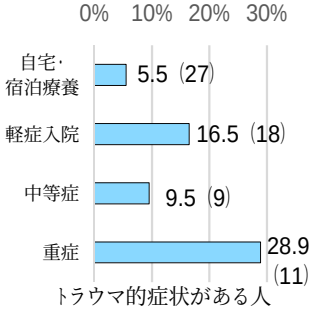

図11　重症度とトラウマ的症状

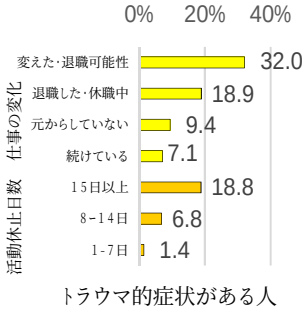

図12　活動休止日数・仕事の変化とトラウマ的症状

結果

- 3ヶ月時点で29.1%、6ヶ月時点で21.5%、12ヶ月時点で19.3%の回答者に後遺症があり、特に咳・倦怠感・痰が多かった（図5）。
- 3ヶ月の時点でみられた症状は、倦怠感、咳嗽、呼吸困難、集中力低下、抑うつ状態が多い傾向にあった。いずれの症状においても、経時的に減少しており、12ヶ月後に5%以上残存していた症状は、倦怠感、不眠、抑うつ状態であった。精神的症状は身体的症状に比べ、長期間残存する傾向が見られた（図5）。女性や20～40歳代の回答者では、症状が比較的多い傾向が見られた。以上の傾向は全国レベルの報告と同様であった。
- 新型コロナウイルス感染症自体の重症度が高いほど後遺症が高い確率でみられることが既に知られており、同様の結果が得られた。さらに、症状の持続期間においても、重症度が高いほど遷延する傾向にあった。
- ワクチン接種状況で後遺症の状況を比較したところ、2回以上接種した群は1回以下の群と比べて、3ヶ月後の時点で倦怠感や呼吸困難等の症状ありの割合が低い傾向が見られた（図6）。
- 罹患により仕事・家事・外出などの活動を完全に休んだ日数は、最大240日、平均14.6(14.4)日、中央値10日で、回答者の21.8%が15日以上休んでいた（図7）。
- 回答者のうち、回答時に罹患前と同じ仕事をしている人は71.2%、罹患前も回答時も仕事をしていない人は16.9%、感染により仕事に何か変化があった人は 9.1%で、内訳は仕事を変えた2.4%、退職の可能性あり0.9%、（仕事を辞めて）休職中2.4%、退職した3.4%であった（図8）。
- 罹患前の日常活動と比べて回答時に何%程度まで回復しているか（活動回復度）という質問に対し、回答者の53.5%が100%と答えた一方、9.2%の回答者は50%以下と答え、平均回復度は86.9%であった。回復度50%以下の人の割合は重症者ほど高く（図9）、高齢者や職業に就いていなかった人でも高かった。また、罹患時の活動休止期間が長かった人や、仕事を変えた・やめるかもしれない人、退職した・休職中という人でも、この割合は高かった（図10）。
- 罹患経験について“考えたくないのについ考えてしまう”（フラッシュバック）、“いろいろな思いがあるが考えないようにしている”（回避）等のトラウマ的症状を評価するために、IES-6という質問を用いた。11点以上だとトラウマ的症状を有する可能性が高いとされるが、平均点は3.3で、回答者の8.9%が11点以上であった。この割合は重症者ほど高かったが（図11）、性・年齢・配偶者の有無・職業の有無による差は見られなかった。また、罹患時の活動休止期間が長かった人や、仕事を変えた・やめるかもしれない人、退職した・休職中という人でも、この割合は高かった（図12）。

まとめ

大分県内の新型コロナウイルス感染症罹患者には、他地域の報告と同様、様々な後遺症が持続していることがわかった。また、日常活動が罹患前のレベルまで回復していない人や、トラウマ的症状が持続している人も少なくないことが示唆された。今後は新型コロナウイルス感染症に対して、罹患者への心理的・社会的支援も含めた幅広い対策が必要と思われる。